



マイクで盛り上げているのが分会組織部長の芳賀さん

名物分会ファイル1

足立支部足立東分会

【足立・内装・芳賀英紀 記】足立東分会の分会建築センターでは工務店2社が連携し中心となる事で、風通しの良い運営に変更し

風通しの良い運営に アメとムチを使い分けて

新しい方が役員になる際も、「毎月なんて行けるか分からない」という不安に対し「行けない時は代わりにOBが行くから気軽に考えよ」と「アメ対応で」優しくし、時には「役員やらないと仕事回さないぞ」と「ムチ対応」で接しました。そうしてお酒の力も相まって、誘われるかのように役員になりました。先輩達が優しく応援してくれたからこそ、今があるそうです。

分会5役は現在30〜50代を中心に活動しています。若手がメインで動き、年配の方がバックアップに回る事でうまく機能しています。今後、支部でたくさん仕事を掘り起こし、地域密着型の分会建築センターとして地域に貢献し、老若男女関係なく皆が生き生きと出来る分会にしていきたいと思っています。足立東分会はこれからも仕事を通じての仲間作りを進めていきます。

した。次第に現場の職人が若返り、同時に雰囲気も明るく変わりました。そんな折、住宅デリーの住宅相談にて「知人の家の建替えをお願いしたい」と仕事の依頼を受け、「分会建築センターとしての新築建替えの受注」に至りました。施主にも大変喜ばれ、足立支部の機関紙「ちから2017新年号」に大々的に掲載されました。またこの事が分会の話題として上がり、分会活動にも若い方が増えてきています。

をほじめ、土建が取り組む多くの活動には「若者を寄せ付けないイメージ」があります。その打開策として「無理強ひせず、いつ来ても明るい雰囲気でも迎えるようにし」、「なんとなく楽しい、次回も来たい」と思ってもらえるようにしています。

分会再編の先に見えるもの

働き方重視で群分け

渋谷は職能別で連帯感創生



加藤さん

【渋谷・タイル・加藤和春 記】渋谷支部は、2017年4月の大会で組織再編を致しました。再編に至った経緯として、10分会あるうち、活動



機能している分会も、世代交代ができない中で運営を強いられていました。そのままだでは先細りしていくのが明確で、先輩方が健在のうちに何か手立てを加えねばという危機感がありました。

同じ世代に 共感生まれ

再編をするに当たり働き方を重視し、4つの分会の中に職能別で町場群、野丁場群、設計群、建設関連群、居住群と5つに分かれました。再編をして良かったところは、分会の中で同世代間の連帯感があります。役員として同じ世代の人ががらばっているなら俺たちも、みたいな共感です。今のところ、上手くいっていないところは3つあると思っています。①情報伝達の仕組みが構築されていないこと

再編をするに当たり働き方を重視し、4つの分会の中に職能別で町場群、野丁場群、設計群、建設関連群、居住群と5つに分かれました。再編をして良かったところは、分会の中で同世代間の連帯感があります。役員として同じ世代の人ががらばっているなら俺たちも、みたいな共感です。今のところ、上手くいっていないところは3つあると思っています。①情報伝達の仕組みが構築されていないこと

と、②少数精鋭の限られた中での運動になってしまっていること、③初年度ということもあり、共感を持っているものの全体としての動きに整合性が保たれていないことです。これを解消するために分会としての意志、各組合員個人としての意志、渋谷支部を動かす原動力となる強い意志をもとに議論して方向性をしっかりと出していくことが大事だと思っています。10月開催のD.O.ケンちゃんフェスティバルでは、新しい分会の仲間をプースを出して楽しくイベントを行ないました。東部分会では分会レクを恒例のバスレクから若い人も参加しやすいよう、近場にして現地集合現地解散にするなど、工夫もされています。仲間と一緒に頑張っていきたいと思っています。

新人を積極登用で

組織を活性化する町田



桑名さん

町田支部では2010年の支部大会で分会再編の方針を決定し、3年の準備期間を経てそれまで15あった分会を8分会に再編。その経験について、町田支部で常任執行委員を務める桑名範朗さんにお伺いしました。

「まず、分会再編に至った経緯について教えてください。」

「桑名さん、当時、町田支部には分会が15あり、企業群を有する最大分会が482人に対して、最小分会が39人と12倍以上の格差がありました。小分会でも取り組み内容はそんなに変わらないので、役員などの人的負担や財政負担が重くなり、そろそろ限界に来て

いたのです。そこで、「1分会を250人から300人程度に再編する」という方針が決まったのです。」

「再編はすんなり進んだのですか。」

「桑名さん、支部全体での大規模再編は未経験でしたので、3年間の準備期間を設けました。その間、約2カ月に1回は再編委員が支部に集まり全

た本町田分会と、再編相手の野津田金井分会との間でも、役員との顔合わせから合併にあたっての人員の把握、それぞれの分会の財政事情の確認などを諸会議の合間に行なっていました。」

「苦勞した点はありませんか。」

「桑名さん、どの分会でも動きに差があり、活動的な所とそうでない所があって、すべてが平等というわけにはいかず、最初の内はなかなか会えない人がけっこういました。」

「再編して良かったですか。」

「桑名さん、4年経ってやっと良かったと言えるようになってきたと思います。これは東京土建全体にも言えることですが、組織的に年配者が多くなってきた、役員の定年にかかる年代が増加。世代交代しなければならぬのに、なり手がいない。この問題を、合併で人数を増やして大きくする事で飲み込みました。」

「今後の課題・展望は。」

「桑名さん、合併しても役員の成り手不足は変わりません。なので私は、新加入者を積極的に登用するようにしてきました。しっかりと群会議が運営されている群に入って、組合のことを正しく理解してもらうことで、後継役員が育ち、世代交代が進み、組織が活性化していくのだと思います。」



力をあわせて交流BBQ大会の準備をする本町田野津田金井分会の皆さん